

三田などの企業9社が企画

## 児童250人、まちを形づくる



作品を並べて一つのまちを作った



端材を使った工作に取り組む子どももい  
ずれもイオンモール神戸北

国連の持続可能な開発目標「SDGs」について学ぶイベントが10日、神戸市北区のイオンモール神戸北であった。小学生約250人が端材を使って建物を工作し、クイズも体験した。

SDGsは持続可能な世界を実現するため、国連が2030年に向けて掲げた17の目標などからなる。神戸市北区と三田、三木市の企業9社でつくる任意団体「神戸三田SDGs推進実行委員会」が催しを企画した。

子どもたちは、貧困や資源の減少、地球温暖化といった課題について学ぶ映像を視聴。団体に加盟するコタニ住研（三田市）などが提供した木の端材を使い、思い思いに家やビル、タワーなどを作った。色を塗って「SDGs」の形に並べ、一つのまちを形づかった。

また、水を大事に使う▽電気をこまめに消す▽できるだけ裏紙を使うーなど、自分ができることを考えて紙に書き、会場に張った。子どもたちの工作とメッセージは、14日まで展示している。

三田市立富士小4年の木村菜月さん(10)は「食べ物を残さずに、身の回りの物も大切に使用したい」と話していた。

(小森有喜)